

Library Navigator

立命館大学 図書館だより
ライブラリーナビゲーター

ISSN 1345-3343

Vol. 132

Fall/Winter 2023



図書館イメージキャラクター：よむりす

[図書館副館長からのメッセージ]

過ぎたるは猶及ばざるが如し

里深 好文

図書館副館長 理工学部教授

[特集1]

2022年度 図書館利用実態 アンケート結果報告

過ぎたるは猶及ばざるが如し

里深 好文

図書館副館長 理工学部教授



このWebマガジン「図書館だより～Library Navigator」に学生へのメッセージをとお話をいただいたこともあって、先日、久しぶりにBKCのメディアセンターに足を運びました。コロナ感染症がもたらした混乱はもちろん大学の図書館にも及んでいましたので、私自身何年かぶりの訪問でありました。コロナ以前と同様に静まり返った館内で多くの学生諸君が熱心に調べ物をしている様子に安堵し、「びあら」ではいくつもの学生グループが仲良さげに語り

合っていて、大学があるべき姿に戻ったことを実感いたしました。こんな何気ない光景をただで感動してしまうとは、少々歳を取りすぎたのかもしれません。

それほどまでに図書館から遠ざかっているとは研究者として不適合ではないのか、とお叱りを受けそうな気もしますが、実のところ研究においては図書館に出入りできないことによる不都合はほとんど生じていないのでありました。私だけではなく、多くの理系の先生方は研究に必要な情報は

オンラインで入手するのがもはや当然となっていて、何か特別な事情がなければ図書館に向いて文献や資料を探す必要はなくなっているのです。本当に便利になったものだと思います。キーワードを入力さえすれば数多くの文献に素早く触れられる時代になったことは本当に嬉しいことです。インターネットが登場する以前は、論文を探すこと自体がかなり大変な仕事だったのですから。

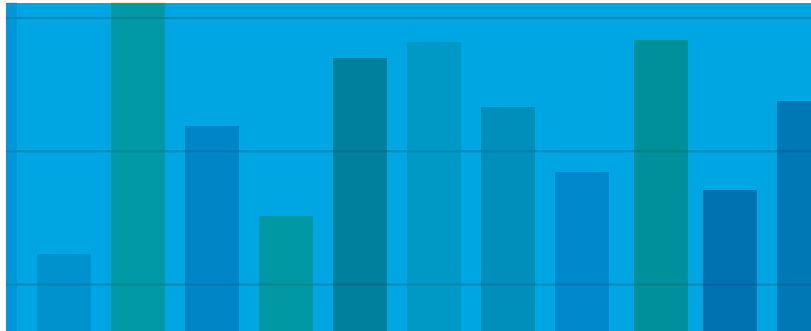
今から40年ほど前、大学4年生になったばかりの私はゼミで発表するための論文を一人で探していました。大学付属研究所の図書館の閉架書庫には人の気配がなく、インクとホコリの匂いが満ちていました。圧倒的な蔵書の数に圧倒され、さて、どこから手を付けてよいものやらとしばし思い悩んでいましたが、立派に装丁された海外の学術誌を手に見てみると、自分が「研究」の入り口に立ったのだとの強い思いが湧いてきたのです。まだ本の中の情報を知る前の段階ではありましたが、本の匂い、手触り、重さ、ページを捲る音、といった感覚だけでも喜びを感じずにはいられなかったのです。この時の記憶は今もはっきりと私の中に残っています。海外からやってきた論文の中にある新しい情報もさることながら、図書館の持つ「空間」そのものが大いに刺激的でありました。残念ながら私が選んだ論文たちはゼミの場でいずれも「つまらない」との評価を受けてしまいましたが、それでも世界中でほんの一握りの人だけが知っている事柄に触れられたことに十分すぎるほど感動したのです。

「過ぎたるは猶及ばざるが如し」との言葉があります。私は昨今の効率至上主義とも

いえる状況にいささか疑念を持っています。著名な文学作品をダイジェスト版で読み、映画の短縮版を違法な形で見ることは「楽しい」ことなのか、私には分からないのです。作品の内容をただ知っていることにどれだけの価値があるのでしょうか。その作品の周りにある「時間」や「空間」までを感じ、じっくりと味わって取り込んでこそ、長く記憶に刻まれる感動が得られるように思うからです。同じ本を読むにしても、「いつ」「どこで」読むのが大事だと思いませんか。最新の論文をオンラインで読むだけの自分を棚に上げて何を言っているのか、と思われるかもしれませんが、かつての想いを忘れかけているからこそ、図書館の持つ「空気」を若い方々にも感じてほしいと願うのです。

いうまでもなく大学は単なる職業訓練の場ではありません。人と出会い、刺激を受け、思い悩みながら成長するための場であると私は思っています。立命館大学の図書館はまさにそのために必要な装置です。図書館は単なる本の置き場所ではなく、多くの人が本と出会って感動し、素敵な時間を過ごすための空間であらねばなりません。果てしない効率化の波に翻弄されて人間の価値観そのものも大きく変容せざるを得ないことは理解できますが、これまで多くの人が感じてきた「楽しさ」をそう簡単に捨て去ってはいけなとも思うのです。思い立った時にいつでも実物の書物に触れられる場所は、大学にとってこれからも最も大切なものであり続けると私は信じています。

2022年度 図書館利用実態アンケート結果報告



たくさんのご協力をありがとうございました。
アンケート結果および自由記述コメントに対する図書館の取り組みについて以下ご報告します。

対象者：全学部学生、全大学院学生

実施期間：2023年1月6日～1月27日

回答者数：647名

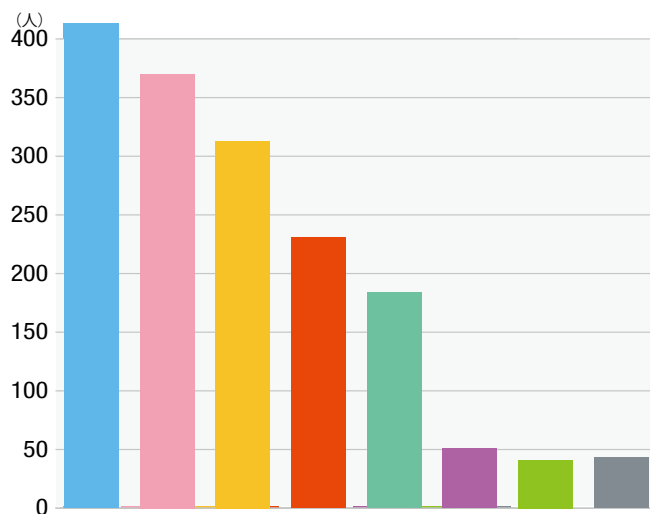
キャンパス別回答者数：衣笠361名、BKC169名、OIC110名、朱雀7名

Part 1

DATA 2022

アンケート13項目のうち、図書館の利用に関する項目を一部抜粋して報告します。

図書館を利用する目的は？（複数回答）



資料活用	413人	63.8%
情報収集	370人	57.2%
試験準備	313人	48.4%
読書	231人	35.7%
休憩・リラックス	184人	28.4%
研究・予復習	51人	7.9%
ディスカッション・ミーティング	41人	6.3%
その他	43人	6.6%

コメント

図書館の利用目的は資料活用、情報収集、試験準備、読書、休憩・リラックス、研究・予復習の順となりました。それぞれの利用者が日々の学部・研究科での学びを深めるために利用していることがわかります。

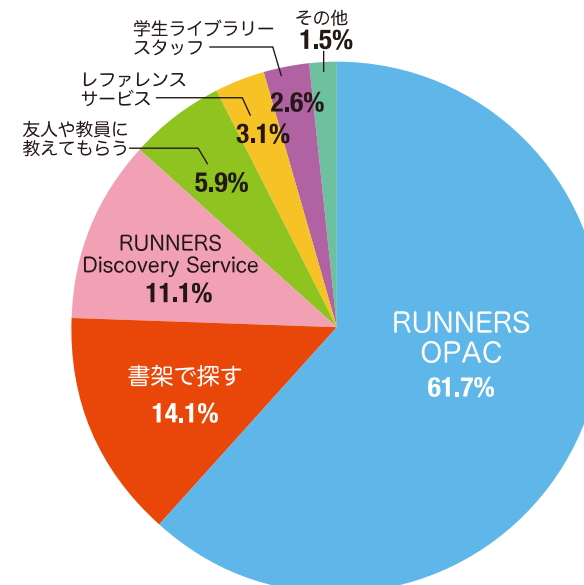
それぞれの図書資料をどこで利用しているか教えてください

利用場所 上段：数値 下段：比率	通学途中	自宅・下宿	図書館内 閲覧室	ぴあら	教室・研究室	(学部棟にある) ラーニング コモンズ	使わない	合計
図書資料 (紙媒体)	41 6.3%	270 41.7%	258 39.9%	5 0.8%	43 6.6%	2 0.3%	28 4.3%	647 100%
雑誌 (紙媒体)	12 1.9%	58 9.0%	256 39.6%	5 0.8%	16 2.5%	0 0.0%	300 46.4%	647 100%
e-book	14 2.2%	169 26.1%	42 6.5%	4 0.6%	30 4.6%	6 0.9%	382 59.0%	647 100%
e-journal	9 1.4%	180 27.8%	44 6.8%	7 1.1%	42 6.5%	6 0.9%	359 55.5%	647 100%
データベース	14 2.2%	297 45.9%	100 15.5%	8 1.2%	65 10.0%	5 0.8%	158 24.4%	647 100%

コメント

紙媒体の図書や雑誌は図書館内での利用を中心に、貸出手续をして館外でも利用されています。一方、電子資料であるe-book、e-journal、データベースは自宅・下宿で利用するなど、コロナ禍での学習スタイルを反映した結果となりました。

図書館資料を利用する際に最も役立つツールおよびサービスを教えてください（択一）



RUNNERS OPAC	399人	61.7%
書架で探す	91人	14.1%
RUNNERS Discovery Service	72人	11.1%
友人や教員に教えてもらう	38人	5.9%
レファレンスサービス	20人	3.1%
学生ライブラリースタッフ	17人	2.6%
その他	10人	1.5%

コメント

図書館資料の利用には、RUNNERS OPACに次いで書架で探す、RUNNERS Discovery Serviceの順となります。ホームページのTOPにある検索窓が活用されています。図書館の書架で資料を探すと、ぜひ資料に出会えることがありますので、ぜひ書架を歩いてみてください。また図書館では学生ライブラリースタッフやレファレンスカウンターにて資料検索のお手伝いをしますので、困ったときはご相談ください。

アンケートの自由記述欄に寄せられた意見について

図書館利用実態アンケートでは、自由記述欄にも多くの方からご意見をいただきました。記入延べ総数254件の内訳は、図書館サービスについて(159件)、図書館の収書や蔵書等について(67件)、図書館には直接関係しない記述や感想など(28件)となっていました。今回、多くの方からの関心が集まったものを中心に、図書館の取り組みや考え方についてご紹介します。

1 開館時間を延長してほしい。

試験期間前、試験期間中や土曜日、日曜日、祝日の開館時間延長を希望する声をいただきました。



現在、平井嘉一郎記念図書館（衣笠）、メディアセンター・メディアライブラリー（BKC）、OICライブラリーの開講期間の開館時間は、平日・祝日授業日・定期試験日は午前8時30分～午後10時、土曜日・日曜日は午前10時～午後5時を基本としています。これは他大学の開館状況も同等程度となっています。立命館大学図書館は、資料活用、情報収集など利用者の学術資料へのアクセス機会を可能な限り増やすため、年間の開館日数と授業日の開館時間を可能な限り増やす方針のもと、学事日程、蔵書の整理、施設設備の点検や工事の必要性等を踏まえて開館スケジュールを決定しています。

現時点では土曜日、日曜日、祝日の開館時間の延長は予定しておりませんが、ご要望を受けてよりニーズが高い時期の開館時間の延長については引き続き検討したいと思います。

2 資料を増やしてほしい。

文学作品、小説、ライトノベル、漫画、電子資料などいろいろな資料を希望する声をいただきました。



立命館大学図書館は、主に大学の学部学生・大学院生および教職員の教育、研究ならびに学習に必要な学術資料を収集・整理・保存し、利用者へ提供しています。日々膨大な数の学術資料が世界中で出版されており、これら全てを網羅的に収集することは困難であることから、立命館大学図書館として学術資料を収集する際の基本的な考え方を定めた「[図書館資料収集の基本方針と収書基準](#)」に基づき、図書館の蔵書整備に努めています。また、近年では、電子出版される学術資料の増加傾向も顕著であり、電子書籍や電子ジャーナルについても積極的に収集しています。学術雑誌、データベース等については、教員の協力も得て専門的な視点から資料を選定しています。

図書館で所蔵してほしい資料があれば、[MyLibrary](#)の「利用者サービス」メニューの「図書購入申込（学習用）」から申込むことができます。ただし、上記の収書基準では漫画やフィクション単行書（小説）などは収集しないとしているため、希望に沿えないことがあります。

図書館には、自大学の教育や研究に必要な学術資料を専ら収集する大学図書館のほか、自治体等が運営する社会教育を目的とした公共図書館、漫画・建築・文化といった専門的な分野の資料を収集している専門図書館など、様々な種類の図書館があり、多くの図書館ではオンライン蔵書検索（OPAC）を公開しています。目的に応じて図書館を使い分けて利用してください。

3 より快適な施設、環境にしてほしい。

「コンセント付きの席を増やしてほしい」など、施設・設備に関する改善の声をいただきました。



図書館では、学習環境や学術資料の変化、または技術革新等に対応して、継続的に情報・ネットワーク機器の更新や機能の拡充を行っています。一方で、開設から25年以上が経過しているBKCのメディアセンター、メディアライブラリーでは、施設環境の改善を求める多くの声をいただいています。それらを参考にBKCのメディアセンター、メディアライブラリーでは、机・椅子等の仕入れ替え、カーペットの張り替え、閲覧席への電源コンセント増設等を進めています。これら以外にも、図書館では中長期的な計画に基づいて、無線LAN環境の整備やLED照明への交換等の施設・設備の改善を行っております。

4 空調を改善してほしい。

「暑すぎる」「寒すぎる」など、空調の改善を希望する声をいただきました。



図書館では、教室などの施設と同様、キャンパス全体の空調運転スケジュールに沿って、全館の冷暖房温度の設定、空調管理を行っています。また、通常は冷暖房運転を行わない時期にも、館内の温度が適温ではないと判断される場合には、臨時で冷暖房運転を行っています。加えて、これまでのアンケートでのご指摘にお応えし、遮光パネルや遮熱フィルムの設置や設定温度の変更、開館前の空調運転などの工夫も行っています。閲覧室などの大きな空間では、同じ室内でも座席位置や日差しの状態によって温度差が生じやすく、人によっても感じ方が違う場合も見受けられますので、席を移動して環境を変えてみるなどの工夫をお願いいたします。そのうえでなお解消されない場合には、各図書館サービスカウンターにお申し出ください。

5 食事をとれるようにしてほしい。

「食事を許可してほしい」「食事をとれる場所を設けてほしい」などの声をいただきました。



図書館内での食事は、図書資料の汚損や害虫発生の原因になる可能性があり、匂いが他の利用者の迷惑となるなど、様々な問題が起こりえます。食事の際は食堂等をご利用していただき、図書・資料や図書館施設の保全にご協力をお願いします。

6 館内では静かにしてほしい。

「大きな声で会話する人がいます」「静かな閲覧室での会話が迷惑です」などの声をいただきました。



図書館スタッフや警備員などが定期的に巡回し、通話や会話を行っている方がおられた場合は、通話が可能なエリアや発話可能な「びあら」への移動をお願いしています。図書館は立命館大学の全構成員が学習・研究目的で利用する共有の施設です。図書館では、利用者の皆さんが学習や研究に集中して取り組むことができるよう、「びあら」やセミナールーム以外では発話を制限しています。利用者の皆さん一人一人が意識しあい、静粛な環境をつくりあげることが重要です。そのうえで、利用者の誰かが、利用環境を悪化させているような場面に遭遇した場合には、図書館スタッフにお申し出いただくなど、静寂な利用環境の維持にご協力をお願いします。

図書館では、これからも様々な機会を通じて図書館サービスや蔵書、施設・設備等の改善に努めます。